

LPガス製造販売のつばめガス(岡山市福田)は、ガスメーターを利用した独居高齢者らの安否確認サービスを始めた。ガスが長時間使われないなどの異

変を察知し、離れて暮らす家族らに電子メールで連絡。自宅などで誰にもみとられずに亡くなる「孤立死」の防止につなげる。(萩原聡)

独居高齢者の安否確認

つばめガスが新サービス

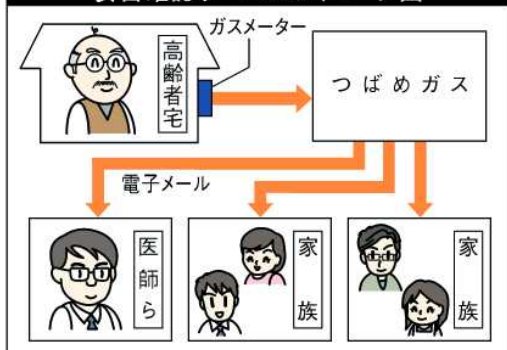


メーター利用 異変メールで連絡

サービス名は、「見守り・net」。つないだガス利用がなければ、本だけでなく、かかりつけ電話回線を通じ、ガスの社の総合管理センターか、家族らのパソコンや携帯電話に自動的にメールを送る。価格は、通信機器の導

らかじめ設定した期間(二十四〜四十八時間) メールアドレスは通常(三件まで登録し、別料金)が五千二百五十円。利用

安否確認サービスのイメージ図



同社は一九五〇年創業。資本金一千万円。従業員約八十人。売上高十六億五千万円(〇六年三月期)。

料金は月額千五十円で、アドレス追加一件ごとに百円が加算される。同事業区域の岡山、倉敷、福山市などで顧客へのオプションサービスとして

年度から、地域での見守り活動や安否確認などを想定した「孤立死防止推進事業」を全国のモデル地区で始める方針。同社は「LPガスを利用したサービス提供は、中国地方では珍しい」という。桑原社長は「孤立死には、素早く対応していれば助かったとみられるケースもある。ガスのインフラを最大限に生かし、高齢者らの暮らしを見守りたい」と話す。

厚生労働省は二〇〇七年の契約を目指す。売り込み、初年度約二百件の契約を目指す。

「見守り・net」で携帯電話に送信された電子メール(デモ画面)